連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1309 2024/10/31（Thu）

発行　広島高校連絡会事務局
Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp
HP　http:// ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/
携帯 090－1180－7644（村井義幸）
090－9738－8264（望月照巳）

改正公選法が施行され、今年で 11年

支援を必要とする国民の政治参加は今？

成年後見制度を利用する知的障害者の人たちを含め多くの人に選挙権を認める改正公選法が施行され、今年で 11年がたつ。運動団体や保護者団体、自治体などは投票しやすい環境整備を進めているが、当事者が示した意思を疑問視するといった偏見は未だ残り、自治体によってルールも違うなど、なお「バリアー」がある。知的障害者の人たちなどの政治参加を考えることは民主主義を根本から問い直すことにつながるのではないか。

闘いによって主権者の幅を拡げてきた～民主々義とは？主権者とは？～

戦後、日本国憲法のもとでやっと成人男女が選挙権を獲得したが、知的・精神障害や認知症で「判断力が不十分な人（禁治産者、成年被後見人）」は選挙権がなかった。知的障害のある女性が提訴し障害などで投票したくてもできなかった人たちの運動の広がりの中で、その思いを裁判で訴えた。2013 年東京地裁の違憲判決を受け公選法が改正され、ようやく手にした権利により法的にはすべての人の選挙権が勝ち取られた。投票に代筆を認める代理投票の要件も「身体」の障害から「心身」に広がった。

知的障害者の投票を巡り、自治体ごとに対応が異なる場面と狛江市の支援例

投票所での対応	狛江市では…
本人確認	名前や生年月日を言えなくても障害者手帳などの提示でOK
付き添い	不安なら投票所内に同行し、記載する時に後ろ手で手つなぎもOK
投票の意思確認	指さしやまばたきなどで意思表示が2度確認できればOK
メモの持ち込み	各候補者名のカード、写真付き選挙公報の切り抜きや候補者名のメモもOK
投票中にパニック	休憩スポットや閲覧用の選挙公報を準備。再入場もOK

判断が正しいとの前提で支援することが大切（東京狛江市）

知的障害のある人への投票支援は、国が詳細な運用指針を示していないこともあって、自治体ごとの差が大きい。本人確認では、名前を呼ばれて返事があれば良いとするケースがある一方で、生年月日や住所の確認まで求めるケースもある。また、投票所に持ち込めるメモの範囲も、どこまで認めるかは各選挙管理委員会の裁量に委ねられているのが実情だ。

その中で、先進地として知られているのが東京都狛江市である。「障害があるからといって投票が正しいか他人に心配される必要はない。自己判断で決めたことが正しいという前提で支援することが大切」という考えに基づき、法施行当初から当事者団体「狛江市手をつなぐ親の会」などと協力して必要な配慮を書き込む「支援カード」や、わかりやすい選挙広報誌の作成、模擬投票などの試みを続けてきた。投票方法を解説した DVD や「主権者教育の手引き」と題する冊子も配布しているという。

総務省は 2023 年から、狛江市などの事例をホームページで紹介している。取り組みを主導する狛江市の担当者は「厳格さを求めれば弾力的運用は難しくなる」として、障害者に寄り添ったルール作りを進める。知的・発達障害は、特性や必要な支援もさまざまで、行政、家族双方の事前準備が特に大切で、わかりやすく優しい選挙は誰にとっても配慮あるものになると話す。

◆どんな困難があっても民主主義を担う市民の１人（東京新聞 2023/4 月コメントより）

京都産業大の堀川諭准教授（情報保障論）によれば、「知的障害者の投票には投票行為の難しさ、投票先の情報の乏しさ、2 つの障壁がある。しかし、投票を経験することで社会や政治への関心は高まっていく」。全体を見れば、政治を難しく感じたり、自分の生活とは無関係だと感じ投票に行かない若者もいる。誰もが投票への第一歩を踏み出しやすいようハードルを下げることが幅広い政治参加を促すことに繋がる。どんな困難があっても民主主義を担う市民の一人だとする視点で見れば、障害のある人たちの投票は、あらゆる人のための政治を考えることにつながることが分かる。

※「六文銭」は、裏に掲載しています。

六文銭

▼赤旗の褌（ふんどし）借りて、勝ちいくさ　（朝日川柳＝三重県　毎熊　伊佐男）。X（旧ツイッター）には、#赤旗ありがとう、#共産党頑張れが出ており、共産党本部には、「お礼にせめて『赤旗』購読を」との連絡が、沢山あるとのことです▼今回の選挙は、岸田首相が、内閣支持率低迷を何とか、打開するため、総裁選挙を構えたことに始まります▼その低迷は、裏金作りの赤旗スクープによって創られまし▼あまりの低迷ぶりで、「総裁選で再選」を狙っていた岸田首相は、自分が最終責任を持つと言い訳をしながら、総裁選不出馬となりました▼当初、小泉新次郎氏本命から、色々迷走しながらも、党内野党としての石破茂氏が、新総裁＝新首相となりましたが、総裁選挙で述べていたことを、否定して「予算委員会で徹底論議をして、国民の皆さんに判断材料を提供する」と言っていた舌の乾かぬうちに、党首討論のみでの抜き打ち解散でした▼処分に関しても迷走を続け、最後の自民党非公認者への２千万円送金が、決定打となり、自公政治片方の公明党の石井新党首落選という激震も生まれました▼伝説の雀鬼、桜井章一氏による勝負の四段階、では、もちろん良い内容で勝つのが第一、良い内容で負けるのが二番目、三番目が悪い内容で負ける、最後が悪い内容で勝つ▼なので今回の選挙は、二番目の結果ですね。国民民主党玉木雄一郎などは、浮かれてしまって、すぐに化けの皮が剥がれるでしょう。維新のように▼よって、来年の参議院選挙は、勝てるし絶対勝つ！です。

2024/10/31

※「六文銭」は、裏に掲載しています。